

研究雑話(116)

障害児教育・動作学誌上実習(34)
藤井力夫

姿勢反射の発達とリズム運動の習熟 (14)

3歳児の挑戦、階段・飛び降りでの片脚支持の増強。

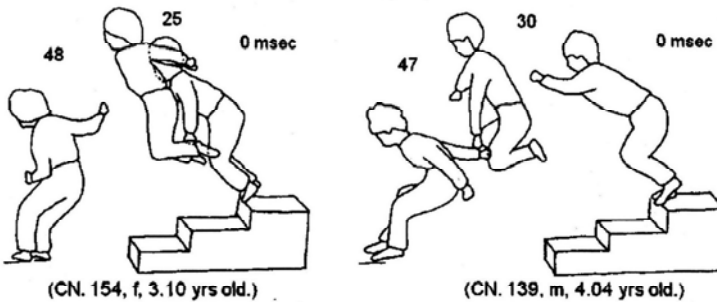
前回は、リズム運動・《トンボ》における跳び直り反射の抑制についてお話ししました。躯幹前傾による遊離脚・後方伸展やパラシュート反応によるトンボ模倣は、支持脚での跳び

直り反射の抑制により実現されます。跳び直り反射誘発のスキップ動作とは逆で、両者は表裏の関係です。前腕持ち上げ→遊離脚・足関節底屈→同・足指底屈という誘発部位の随意

《バタ足降り》から《両足跳び降り》、《引き寄せ着床》：階段歩行と両足跳び降り、両者は高め合う関係にあります。片脚支持が増強されるほど、両足跳び直りが安定、かつ、逆も成立します。砂場遊びの2歳児が、そろえ登りで、バタ足降り開始であったのに対し(段階2、3)、3歳児は、これを基礎に交互歩行で、両足跳び(段階4)、4歳児は、その習熟により、歩行が安定、跳び直りも両足引き寄せで着床(段階5)、そういう関係にあります。

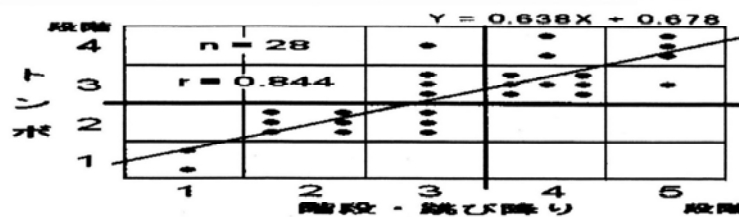
A. 《階段・跳び降り》の発達段階。(藤井:1983)

段階4 交互歩行・揃え足回転・両足跳び 段階5 交互歩行・多数回転・引き寄せ着床

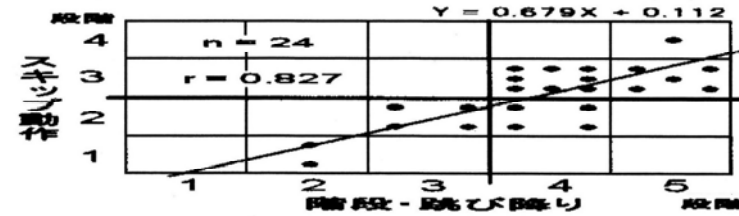


段階1 そろえのぼり停止 段階2 そろえのぼり連続
回転困難 多数歩回転
ハイガード手繋ぎ降り そろえ降り1段階試行
(50%ile, 1.07 yrs old.) (50%ile, 2.04 yrs old.)
段階3 交互支持のぼり・回転可・バタ足降り
(CN. 180, m, 2.11 yrs old.)
(階段仕様：幅40, 蹴上げ10, 踏み面28cm)

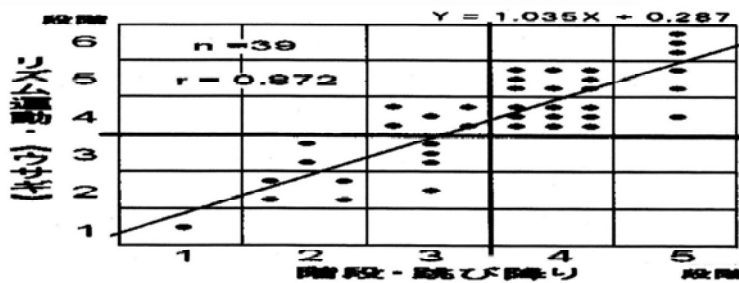
B. 《階段・跳び降り》との発達連関。



C. 《階段・跳び降り》と《スキップ動作》。



D. 《階段・跳び降り》と《ウサギ》。



化は、跳び直りの抑制如何をも示します。今回は、片脚支持自体の増強についてお話ししたいと思います。3歳児における挑戦、階段・跳び降りがそれです。

2、3歳児を念頭においた《階段・跳び降り》課題：幅40cm、蹴上げ10cm、踏み面28cm、3段の階段。歩いて登り、3段目で向きを変え、跳び降りという課題。図Aは、各段階を特徴づける跳び降り動作の解析。踏切、空中、着床時の姿態。2歳11ヶ月、3歳10ヶ月、4歳4ヶ月児の事例。《階段・跳び降り》における3歳児の挑戦が、見事に表現されています。

そろえ登りを基礎とした片脚支持・骨盤傾斜の増強：そろえ登りが安定するほどに、片脚支持での骨盤傾斜が増強されます。登ったり、降りたり、3歳児は、まさに片脚支持・骨盤傾斜の増強期です。増強により、次への飛躍が約束されます。図Bでのトンボ・段階3、4、パラシュートや躯幹前傾による遊離脚後方伸展。図Cでのスキップ動作の開始(段階3)。これらは、その例証です。

飛躍への基礎、両足跳び直りでの伸展性弾力の増強：図Dは、リズム運動・《ウサギ》との発達連関。《階段・跳び降り》段階3の交互支持・バタ足降りは、ウサギの段階3から4、即ち、「両足浮上」から「両足跳び」への移行に対応。段階4の交互歩行・両足跳びは、ウサギの段階4から5、即ち、「両足跳び」から「底屈跳び」への移行に対応(雑話106)。これらは、片脚支持への移行に、両足跳び直りでの下肢筋・伸展性弾力の増強が存在することを示しています。(北海道教育大学教授)